

(別添)

順天堂大学医学部附属練馬病院 公的医療機関等2025プラン

2017年 9月 策定

【順天堂大学医学部附属練馬病院の基本情報】

医療機関名：順天堂大学医学部附属練馬病院

開設主体：学校法人順天堂

所在地：東京都練馬区高野台3-1-10

許可病床数：400床

（病床の種別）

・一般病床 400床

（病床機能別）

・高度急性期機能 10床

・急性期機能 390床

稼働病床数：400床

（病床の種別）

・一般病床 400床

（病床機能別）

・高度急性期機能 10床

・急性期機能 390床

診療科目：総合診療・性差科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、腎・高血圧内科、膠原病・リウマチ内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、メンタルクリニック、小児科、小児外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科・スポーツ診療科、形成外科、皮膚・アレルギー科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸科、放射線科、産科・婦人科、麻酔科・ペインクリニック、病理診断科、リハビリテーション科、救急・集中治療科

職員数：867人

・ 医師 220人

・ 看護職員 485人

・ 専門職 107人

・ 事務職員 55人

（2017年9月1日時点、パート職員含む）

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

- ・地域の人口については現状増加傾向にあるものの、2025年の190万人をピークに減少に転じると推計されている。また高齢化率（65歳以上人口割合）については、2010年：20.7%⇒2040年：35.7%と増加傾向にある。
- ・地域の医療需要（入院患者数）については年々増加傾向にある。2040年には2013年対比で4割増加と推計されている。

・地域の特徴

高度急性期	○特定機能病院が2施設（大学病院本院）所在。 ○自構想区域完結率は62.3%と区部で2番目に高く、都内隣接区域を含めると91.5%。
急性期	○自構想区域完結率は68.5%で、都内隣接区域を含めると91.9%と都内で最も高い。 ○高度急性期機能から引き続き入院する患者も含めて、埼玉県からの流入が多く、流入患者の約3割を占める。
回復期	○自構想区域完結率は68.7%で、都内隣接区域を含めると90.8%と高い。 ○人口10万人当たりの回復期リハビリテーション病床数は、都平均の約1.4倍と都内構想区域で最も多い。
慢性期	○人口10万人当たりの障害者施設等入院基本料を算定している病床数は、都平均の約1.4倍、特殊疾患入院料を算定している病床は、都平均の約1.7倍。 ○自構想区域完結率は60.4%と区部で2番目に高く、都内隣接区域を含めると74.5%。 ○埼玉県への流出が多く、流出患者の約3割を占める。

② 構想区域の課題

- ・練馬区は人口10万人当りの一般病床及び療養病床の数が281床（2014年時点）と、23区内で最も少ない。（区平均の3分の1）
- ・三次救急を担う病院が構想区域の東側に集中している。練馬区をカバーする三次救急病院の存在が望まれる。
- ・緩和ケア病棟や精神科病棟は、構想区域内にはあるものの、豊島区には無い。
- ・高度急性期機能では3割以上が流出しているが、区部において2番目に低い。都全体で受け皿整備をどの様に行うかについて、連携方法を含めて検討する必要がある。
- ・地域包括ケアの要となる回復期機能や慢性期機能は、出来るだけ地域の中で診るべき。練馬区ではこれら病床が不足している。
- ・北区は、高齢化率が区部で最も高く（2010年 23.73%）、2017年には後期高齢者数が前期高齢者数を上回る。
- ・医療連携の面で情報の共有化が遅れている為、入院医療機関と在宅との連携が不十分な場合がある。区内だけでなく、区外に所在する医療機関や介護事業者との連携づくりも重要であり、情報交換の場が必要。
- ・医師、歯科医師、薬剤師、看護師などの多職種が、顔の見える範囲で連携や情報共有を行う仕組みが必要。
- ・高齢者人口の増加を踏まえ、災害拠点病院を中心とした災害医療体制の充実を検討する必要がある。

③ 自施設の現状

・ 当院の理念

1. 順天堂の学是“仁”「天道に則り、自然の摂理に順う」精神で人々の生命を尊重し、人間としての尊厳及び権利を守る。
2. 順天堂大学練馬病院は、順天堂の理念「不断前進」の精神で創造的な前進と改革を進める。
3. 大学医学部附属病院として病気の原因究明と効果的な治療解明のためにたゆまぬ研究を推進し、優れた医療技術を開拓する。
4. 地域医療支援病院として地域との連携を密にし、救急医療活動や在宅医療を推進する。また、災害拠点病院としても地域に貢献する。
5. 日本・世界の医療の発展のために、寄与する。

・ 当院の基本方針

1. 患者さん一人ひとりに、安全で根拠に基づく良質かつ高度な医療を提供する。(順天堂大学練馬病院における安全管理のための指針)
2. 患者さんに満足していただけるサービスを提供する。
3. 患者さんが安心して快適な療養生活ができる環境を提供する。

・ 診療実績（2016年度）

外来診療は1日平均患者数約1,309名、入院診療は平均病床稼働97.4%、平均在院日数10.9日とフル稼働の状態が続いています。地域医療支援病院紹介率は71.8%、逆紹介率75.8%と地域医療機関との医療連携に努めています。

・ 当院の重点医療について

救急医療は、救急車搬送数が2013年度より年間6,000件を超え、2016年度は年間6,897台と開院以来最多の救急車を受け入れました。救急車搬送数の増加に伴い、心血管系救急患者数も多く、経皮的冠動脈ステント留置術・経皮的冠動脈形成術等の心カテ治療年間件数は514件です。

今後ますます増えるであろうがん医療についても、胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん、肺がんの5大がんを中心に、内視鏡手術の導入等、大学病院として先進的で低侵襲な手術の導入を積極的に行っています。2016年度中央手術室手術件数は6,220件と、開院以来最多の手術件数を記録しました。

小児外来患者数は1日平均114.3名、小児病棟25床の入院稼働率は平均92.2%、1ヶ月の小児救急患者数390.4名と患者数と共にその重症度も上がっています。近隣クリニックからの当日外来受入れシステムでは、圧倒的に小児患者が多く、月間約50件の依頼が続いています。

産科・周産期医療に関しても、ハイリスクな妊婦さんを重点的に月平均52.1件の受け入れを行っています。

④ 自施設の課題

- ・ 練馬区は人口10万人当りの一般病床及び療養病床の数が281床（2014年時点）と、23区内で最も少ない。同区内に存在する当院としては、自構想区域（区西北部）内完結率を更に高めるべく、増床への取り組みを行う必要がある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・小児・周産期センター、救急室の拡充、ICU・手術室の拡張、心臓血管外科、形成外科新設を目指し、最終的に三次救急認可を目標に、これまで通り練馬区および周辺地域医療の充実に貢献する。

今後も地域医療機関と病診・病病連携を深め、早期の在宅医療・外来診療移行を目標に地域の開業医、訪問看護ステーション、介護施設等、地域全体の医療の質向上と医療機能分担制を作っていく。

「外来診療⇒入院診療⇒在宅医療」といった一連の流れを管理するため、院内の「PFM (Patient Flow Management)」体制確立に取り組む。

② 今後持つべき病床機能

- ・現在の「高度急性期病床」「急性期病床」数は維持した上で、2021年には90床の増床を予定している。従来10床であったICU・CCU機能を12床に増加すると共に、新たにNICU、GCU、HCUを計29床設け、高度急性期機能を拡充する計画としている。

- ・がん診療の拡充として、血液疾患患者のための無菌室を設置する。

③ その他見直すべき点

- ・病院救急車を配置し、転院搬送へ対応出来る体制とする。

- ・「心臓血管外科」の新設により、高度な循環器重症疾患へ対応出来る体制とする。
(ロータブレードを用いた冠動脈治療、両心室ペースメーカー移植術、植込み型除細動器移植術、成人の心房中隔欠損症に対するパッチ閉鎖術)

- ・手術室に血管造影装置を設置し、ハイブリッド手術室とする。先進医療機器「TAVI (Trans catheter aortic value implantation)」を導入し、低侵襲で非手術、経カテーテル的に大動脈弁閉鎖症の治療を行える体制とする。

- ・先端的な手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入し、低侵襲、先進医療を積極的に行っていく。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (2016年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	10床	→	41床
急性期	390床		449床
回復期			
慢性期			
(合計)	400床		490床

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	○増床に向けた練馬区との合意形成に向けた協議	○合意形成する。	
2018年度	○増床に向けた増築・改修工事	○2018年4月新4号館外来棟新築工事着工。	
2019～2020年度	○増床に向けた増築・改修工事	○2019年末新4号館外来棟完成。 ○2020年4月新4号館での外来診療開始。 ○2020年1号館増床工事着工。	
2021～2023年度		○2021年4月490床での入院診療開始。	

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	診療機能拡充のため「心臓血管外科」「形成外科」「腫瘍内科」の新設を目指す。人員は医学部講座より派遣してもらう予定。
廃止		→	
変更・統合	①産科・婦人科 ②救急・集中治療科（日中）、 総合診療・性差科	→	①「産科」と「婦人科」を各々独立させる。 ②「プライマリ・ケアセンター」として再編する。
認定取得	(三次救急) ・区西北部内では三次救急病院が東部に集中しているため、練馬区内で発生した三次救急対象患者の搬送に時間を要している。	→	(三次救急) ・当院が「救命救急センター」の認定を取得することで、練馬区内発生した三次救急対象患者の診療に貢献する。 ・機能維持の為、人員については現状よりさらに厚くする。 ・「救命救急入院料2」の算定。「特定入院料」の増加。

③ その他の数値目標について

<p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病床稼働率： ・ 手術室稼働率： ・ 紹介率： ・ 逆紹介率 <p style="text-align: right;">} 増床後も現在の水準を維持する。</p> <p><u>経営に関する項目*</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費率：特に定めず。 ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：特に定めず。 <p>その他：</p>
--

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

・臨床研修医・学生教育等について

大学医学部附属病院かつ地域医療支援病院という特徴を活かしながら、しかも東京都内という立地にあり、多くの緊急症例を経験でき、大学病院でなければ診られない重症、難病疾患から数多くのCommon Diseaseまで経験できるメリットを活かし、今後も全国から有為な医学生を募っていきたい。今後も当院でしかできない「研修医の研修医による研修医のための研修システム」を求めていきます。

また、併せて「臨床教育病院」として医学生のBSL、看護学生実習はもとより、薬剤師、検査技師、事務職等、順天堂の次代を担う若い職員教育に力を注ぎ、順天堂にとって有為な人材を育てていきたい。